

①

全国遭難対策担当者会議

2026.7.4～5

全国連盟事務所



雨上がりの雲海に浮かぶ夏山登山シーズン前の富士山

日本勤労者山岳連盟 遭難対策部

目 次

表 紙	P 1
目 次	P 2
日程表	P 3
参加者名簿	P 4
基調報告「遭難事故概要から事故の傾向等を学び安全登山へ」	P 5～P18
2025 年度 死亡事故一覧	P19
日本勤労者山岳連盟の事故一報より（2004 年～2025 年の 22 年間）	P20～P23
講義「健康と登山」e ペース登山から分かったこと	P24～P36
事件事例報告①「滝谷クラック尾根 事故報告書」（東京）	P37～P43
事件事例報告②「鹿島槍ヶ岳北壁中央レンゼ 事故報告書」（神奈川）	P44～P48
事件事例報告③「鞍掛沢 事故報告」（山梨）	P49～P62
事件事例報告④「岡山県連機関紙掲載 事故一報」（岡山）	P63～P71
地方連盟の活動「安全登山に向けた栃木県連の取り組み」（栃木）	P72
地方連盟の活動「ヤグラ（確保訓練設備）の説明」（大阪）	P73～P78
「山岳捜索連携協議会」の全貌	P79
メ モ	P80



筋力トレーニングの林和尚講師（右から二人目）

日 程

- 4 日 12 : 00 役員・スタッフ 集合 会場のセット
 12 : 30 受付開始、出席者確認
 13 : 00 開会挨拶・司会（川嶋高志理事長）
 全国連盟（赤間弘記会長）
 13 : 10～13 : 50 基調報告 全国連盟遭対部（石川昌遭難対策部長）
 2025 年の事故統計から（質疑）
 14 : 00～15 : 30 講義 「健康と登山・体力測定・e ペース登山から」
 講師：斉藤篤司福岡労山顧問
 15 : 30～16 : 00 休憩
 16 : 00～17 : 30 事故事例報告（東京、神奈川、山梨、岡山）
 報告 地方連盟（栃木、兵庫）からの報告
 17 : 30～18 : 30 全体的な質疑・応答・討論
 19 : 00～21 : 00 夕食・交流会 （斉藤篤司先生参加）
- 5 日 7 : 00～8 : 00 朝食
 9 : 00～9 : 40 報告
 9 : 40～11 : 00 質疑・討論・その他の報告
 11 : 00～11 : 20 休憩
 11 : 20～11 : 40 討論のまとめ（石川昌遭難対策部長）
 11 : 40～11 : 50 閉会挨拶（臼井邦徳労山山岳事故対策基金委員長）

両日とも昼食は事務所内もしくは近くのコンビニ・スーパーなどで各自対応。

2026. 7. 4~5 全国遭難対策担当者会議 (敬称略)

連盟名	氏名	役職	備考	4日懇親会	宿泊	チェック
北海道道央	大辻 英一	遭難対策部長	1818	○	ユース	
〃	白石 泰之	救助隊副隊長	1818	○	ユース	
宮城県	橋本 治	遭難対策部長	1818	○	ユース	
栃木県	池谷 友夫	会長、安全登山部責任者			自手配	
茨城県	山村 幸夫	事務局長	1818	○	ユース	
千葉県	伊東 春正	教育遭難対策委員長		○	事務所	
東京都	栗原 英一	事務局長	4日のみ参加			
	上平 久治	副会長		○	自手配	
山梨県	菊地 健一	山梨・山の会 会長	1818	○	ユース	
愛知県	平賀 茂	理事	1817	○	ユース	
	高杉 和也	遭対部長	1817	○	ユース	
岐阜県	棚橋 久明	遭難対策部長	1817		ユース	
大阪府	富永 公夫	教育遭難対策部員		○	自手配	
兵庫県	岸岡 寛	安全対策委員	1817	○	ユース	
島根県	三代 一宏	理事長			自手配	
岡山県	加治 郷子	理事長、遭対副委員長	1801	○	ユース	
広島県	小形 正則	副会長、山行部長	1816	○	ユース	
山口県	藤井 祐一	会長	1816	○	ユース	
香川県	吉田 道弘	理事			自手配	
愛媛県	太田 正博	理事長		○	事務所	
福岡県	吉永 直樹	理事長	1816	○	ユース	
佐賀県	牧 興道	副会長、技術部長	1816	○	ユース	
沖縄県	仲尾次 美千代	会計	1801	○	ユース	
全国連盟	赤間 弘記	会長	1819	○	ユース	
	川嶋 高志	理事長	1819	○	自宅	
	石川 昌	副理事長・遭対部長	1819	○	ユース	
	臼井 邦徳	副理事長・基金運営委員長	1819	○	ユース	
	八木澤 昌通	事務局長		○	事務所	
	大和田 英子	理事・国際部長		○	自宅	
	三瓶 健	理事・遭対部員	4日のみ参加			
	柳川 憲一	遭対部員	1819	○	ユース	
	陶山 正	機関誌・紙委員会		○	自宅	
	斉藤 篤司	九州大学名誉教授		○	ホテル	
講演者						
合計				27	31	

全国遭難対策担当者会議

遭難事故概要から事故の 傾向等を学び安全登山へ

日本勤労者山岳連盟 副理事長
遭難対策部会部長 石川 昌



内容

1.令和7年(2025年)における山岳事故の概要等 (警察庁生活安全局生活安全企画課)

- ・警察庁の山岳事故概況から見える登山事故の状況
- ・山岳遭難防止策の現状

2.日本勤労者山岳連盟2025年事故の概要

- ・山岳事故の現状と今後の課題

2025年における山岳遭難の概況等

表1 全国の事故発生状況

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	構成比
発生件数(件)	2,495	2,583	2,661	2,531	2,294	2,635	3,015	3,126	2,946	3,122	
遭難者数(人)	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	3,506	3,568	3,357	3,623	100.0%
死者・行方不明者	319	354	342	299	278	283	327	335	300	332	9.2%
死者	278	315	298	267	241	255	301	293	265	299	8.3%
行方不明者	41	39	44	32	37	28	26	42	35	33	0.9%
負傷者	1,133	1,208	1,201	1,189	974	1,157	1,306	1,400	1,390	1,480	40.9%
無事救出者	1,477	1,549	1,586	1,449	1,445	1,635	1,873	1,833	1,667	1,811	50.0%

全国の発生状況

- ・発生件数3,122件(前年対比+176件)
- ・遭難者数3,623人(前年対比+266人)
- ・死者行方不明者322人(+32人)
- ・負傷者1,480人(+90)
- ・無事救出者1,811人(+144人)

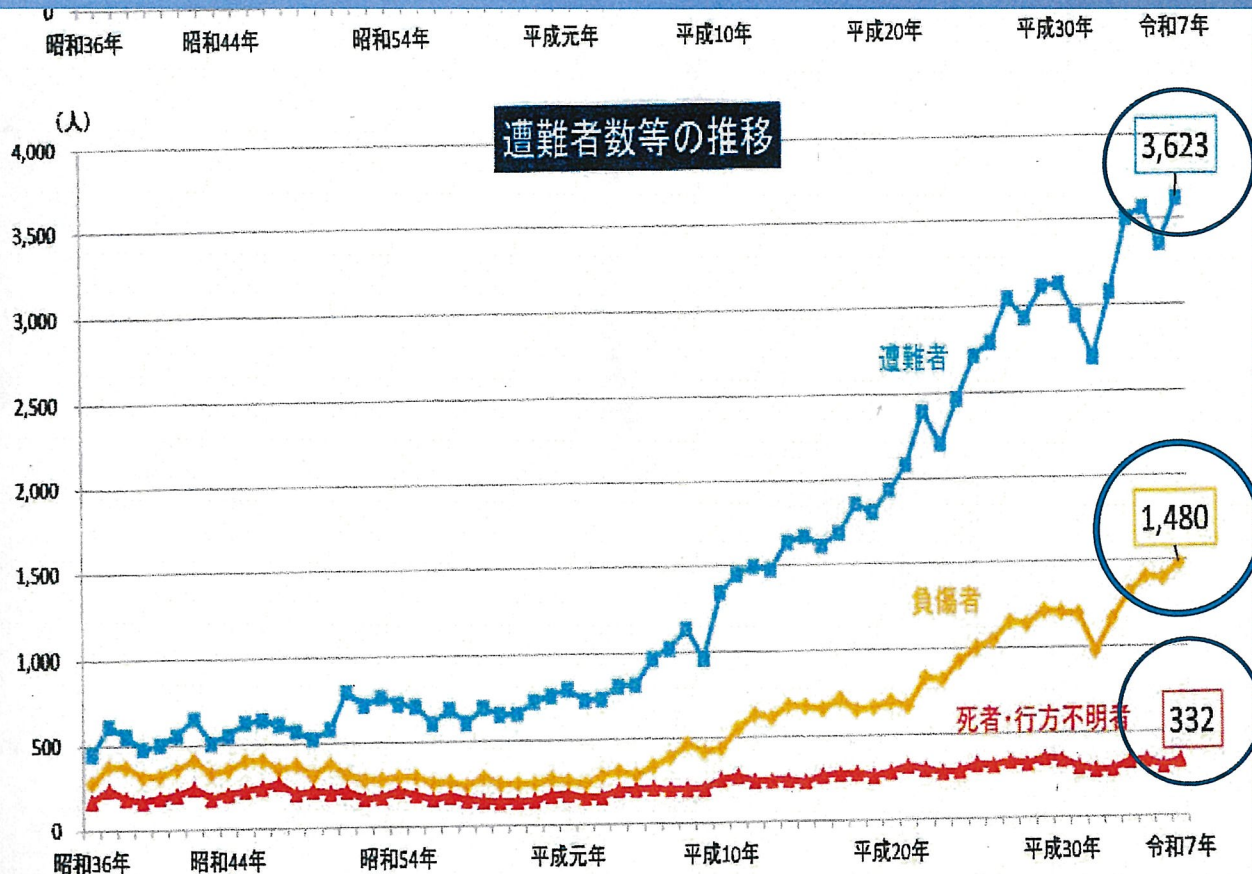
○遭難者数は、過去最多。

発生件数、
死亡者行方不意者、
負傷者、無事
救出者、すべて前年から増加。

(件)

発生件数の推移





注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

表2 都道府県別事故発生状況

都道府県	発生件数 (件)	遭難者数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	199	250	18	1	79	152
青森県	54	76	4	1	13	58
岩手県	41	44	5	1	22	16
宮城県	19	23	4	1	5	13
秋田県	26	27	5		5	17
山形県	68	74	3	2	38	31
福島県	94	108	11	1	60	36
東京都	151	166	15		67	84
茨城県	47	49	5		31	13
栃木県	70	80	8	3	37	32
群馬県	139	151	14	1	66	70
埼玉県	77	85	4	2	44	36
千葉県	18	28			6	22
神奈川県	175	198	9	5	72	110
新潟県	97	112	13		38	61
山梨県	192	219	22	1	105	91
長野県	358	392	51	4	170	167
静岡県	107	114	7		46	61
富山県	165	178	14	1	99	64
石川県	34	39	3	1	17	18
福井県	30	32	6		12	14
岐阜県	123	156	16		58	82
愛知県	42	63			17	46
三重県	80	94	10	1	31	52
滋賀県	77	94	5		48	41
京都府	37	51	1		14	36
大阪府	32	44	2		17	25
兵庫県	126	146	7	1	65	73
奈良県	53	62	5	2	31	24
和歌山県	18	28			3	25
鳥取県	28	29	3		18	8
島根県	9	12			7	5
岡山県	17	22	3		4	15
広島県	29	33	2	1	11	19
山口県	15	18			6	12
徳島県	9	10	4	1	3	2
香川県	4	4			3	1
愛媛県	29	30	6		9	15
高知県	11	16	3	1	3	9
福岡県	59	75	2		20	53
佐賀県	7	8	2		4	2
長崎県	19	23			9	14
熊本県	18	20	1		7	12
大分県	49	63			29	34
宮崎県	14	16	4		5	7
鹿児島県	38	41	2		19	20
沖縄県	18	21		1	7	13
合計	3,122	3,623	299	33	1,480	1,811

2022年

- 1.長野 257人
- 2.北海道 197人
- 3.東京 157人

2023年

- 1.長野 302人
- 2.東京 214人
- 3.北海道212人

2024年

- 1.長野 321人
- 2.北海道189人
- 3.東京 183人
- 3.神奈川183人

2025年

1. 長野県 358人
2. 北海道 199人
3. 山梨県 192人
4. 神奈川 175人
5. 富山県 165人
6. 東京都 151人
7. 群馬県 139人
8. 兵庫県 126人
9. 岐阜県 123人
- 10.静岡県 107人

表3 目的別山岳遭難者

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	2,038	2,395	2,726	2,761	2,676	2,866	79.1%
登山	1,681	1,995	2,333	2,365	2,267	2,488	68.7%
ハイキング	233	260	248	224	222	209	5.8%
スキー登山	43	48	38	66	87	86	2.4%
沢登り	42	50	47	70	62	45	1.2%
岩登り	39	42	60	36	38	38	1.0%
山菜・茸採り	381	346	319	334	296	235	6.5%
その他	278	334	461	473	385	522	14.4%
観光	33	49	70	86	54	103	2.8%
作業	38	46	52	57	46	61	1.7%
溪流釣り	40	37	47	38	35	27	0.7%
写真撮影	13	23	28	28	18	21	0.6%
自然観賞	22	18	23	30	23	35	1.0%
山岳信仰	4	6	12	19	25	14	0.4%
狩猟	6	13	11	6	10	16	0.4%
スキー	52	46	75	80	83	123	3.4%
その他	65	79	73	101	63	95	2.6%
不明	5	17	70	28	28	27	0.7%
合計	2,697	3,075	3,506	3,568	3,357	3,623	100.0%

登山 2866人 79.1%

登山 2,488人
 ハイキング 209人
 スキー登山 86人
 沢登り 45人
 岩登り 38人

山菜・茸採り 235人 6.5%

その他 522人 14.4%

4.態様別山岳遭難者

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道迷い	1186	1277	1280	1204	1021	1119	30.9%
滑落	423	496	578	617	577	626	17.3%
転倒	371	510	602	604	671	694	19.2%
病気	188	218	285	308	256	294	8.1%
疲労	170	204	286	324	343	356	9.8%
その他	359	370	475	511	489	534	14.7%
転落	93	79	98	112	86	79	2.2%
悪天候	27	32	34	37	39	43	1.2%
野生動物襲撃	39	27	38	45	37	41	1.1%
落石	8	15	10	21	15	19	0.5%
雪崩	8	11	13	20	27	24	0.7%
落雷	0	0	0	1	0	1	0.0%
鉄砲水	0	1	58	0	2	14	0.4%
有毒ガス	0	0	0	1	0	3	0.1%
その他	105	124	153	170	198	215	5.9%
不明	79	81	71	104	85	95	2.6%
合計	2697	3075	3506	3568	3357	3623	100.0%

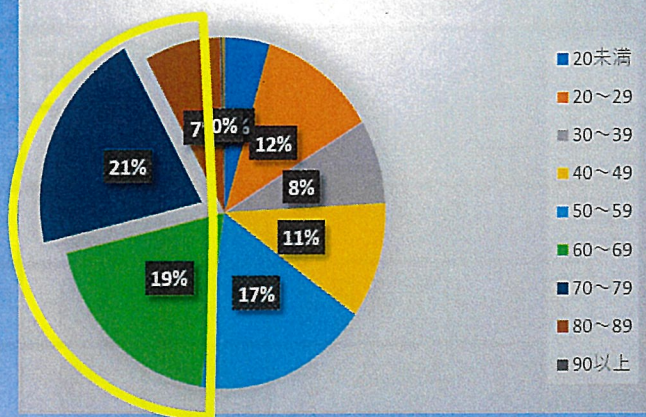
道迷い 1119人 30.9%
 滑落 626人 17.3%
 転倒 694人 19.2%
 病気 294人 8.1%
 疲労 356人 9.8%
 その他 534人 14.7%

転落 79
 悪天候 43
 野生動物襲撃 41 熊の実害は?
 落石 19
 雪崩 24
 落雷 1
 鉄砲水 14
 有毒ガス 3
 その他 215
 不明 95

表6 年齢層別山岳遭難者

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	154	186	154	195	127	164	4.5%
20～29	194	247	296	268	300	429	11.8%
30～39	231	229	258	253	235	283	7.8%
40～49	321	413	406	465	377	388	10.7%
50～59	444	513	562	623	624	628	17.3%
60～69	511	572	708	706	630	693	19.1%
70～79	636	702	823	790	771	749	20.7%
80～89	196	207	230	248	265	271	7.5%
90歳以上	7	5	12	18	11	10	0.3%
不明	3	1	51	2	17	8	0.2%
合計	2,697	3,075	3,506	3,568	3,357	3,623	100.0%

年齢層別山岳遭難者数



40歳以上 2739人 75.6%

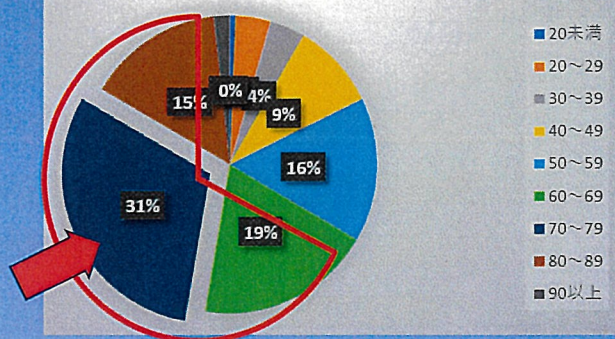
60歳以上 1723人 47.6%

70～79歳 749人 20.7%

表7 年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	2			2		2	0.6%
20～29	8	6	9	6	7	13	3.9%
30～39	14	13	10	19	18	13	3.9%
40～49	16	24	32	32	22	31	9.3%
50～59	35	36	45	50	61	52	15.7%
60～69	69	61	71	58	58	64	19.3%
70～79	96	102	113	117	87	102	30.7%
80～89	37	39	41	45	47	49	14.8%
90歳以上	1	1	6	5		6	1.8%
不明		1		1			
合計	278	283	327	335	300	332	100.0%

年齢層別山岳遭難者数



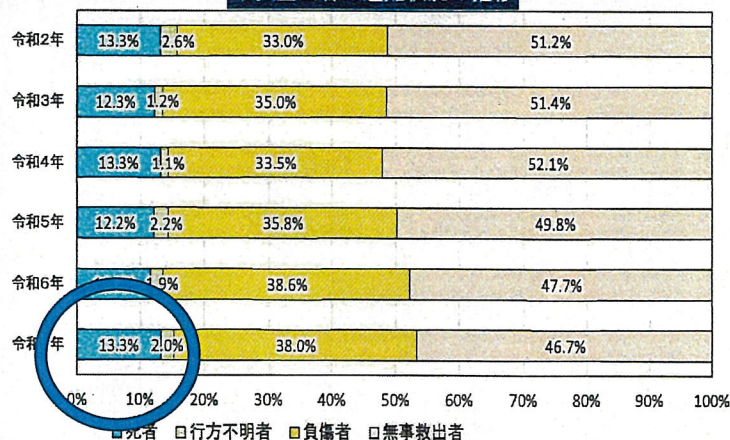
60歳以上 221人 66.6%

70～79歳 102人 31%

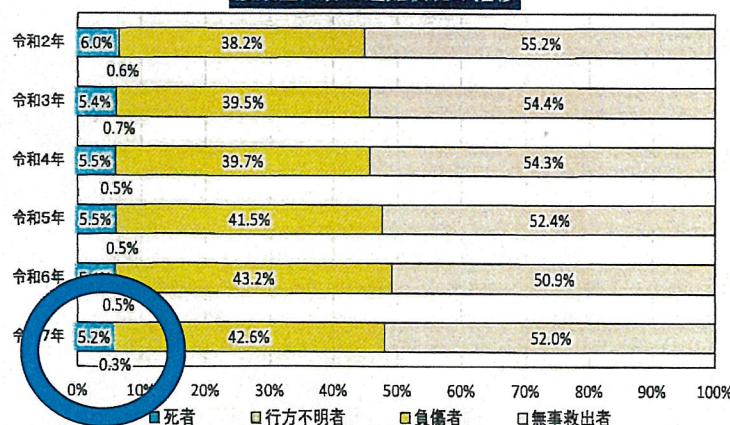
表8 単独登山者の遭難状況

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭 難 者	1,086	1,282	1,394	1,423	1,311	1,367	
死者・行方不明者	172	174	201	205	179	209	15.3%
死 者	144	158	185	174	154	182	13.3%
行方不明者	28	16	16	31	25	27	2.0%
負 傷 者	358	449	467	509	506	520	38.0%
無事救出者	556	659	726	709	626	638	46.7%
全遭難者に占める 単独登山者の割合	40.3%	41.7%	39.8%	39.9%	39.1%	37.7%	

単独登山者の遭難状況の推移



複数登山者の遭難状況の推移



注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

単独登山者
1,367人中209人が
死亡・行方不明
 $13.3 + 2 = 15.3\%$

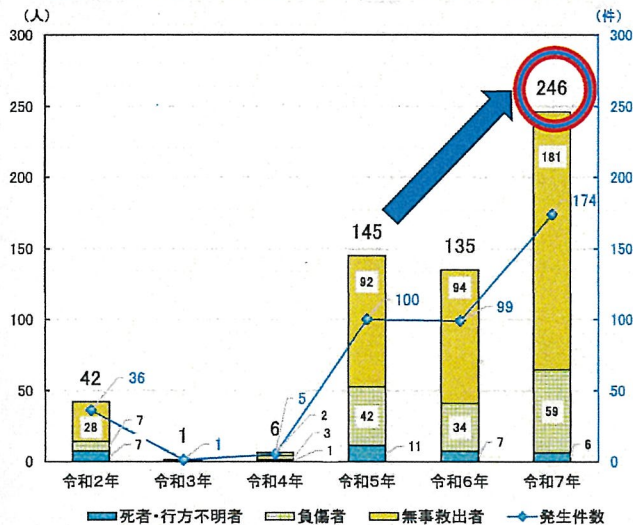
複数登山者
2,256人中123人が
死亡・行方不明
 $5.2 + 0.3 = 5.5\%$

単独と複数登山では
単独の死亡率は、9.8
ポイント高くなっている。

表9 山岳遭難発生件数、遭難者数等の推移(訪日外国人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
発生件数(件)	36	1	5	100	99	174
遭難者数(人)	42	1	6	145	135	246
死者・行方不明者	7		1	11	7	6
死者	6		1	8	6	6
行方不明者	1			3	1	
負傷者	7		3	42	34	59
無事救出者	28	1	2	92	94	181

遭難者数等の推移(訪日外国人)



※ 訪日外国人とは、外国籍を有する者のうち、日本に住所を置く者を除いたものをいう。

コロナを経て、毎年
訪日外国人の遭難は
増加している。

令和2年2020年以前も訪日外国人
の遭難は増加が続き、100名を超え
る状況となり2020年から統計状況
を発表した。

- ・近年はバックカントリーでの雪崩
事故多発している。
- ・基本的登山の力量不足が原
因で事故に繋がる事が多い。

警察庁からの山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足が原因で発生していることから、下記の点に留意する必要がある。

1.的確な計画書と万全な装備品等の準備

気象条件や体力・技術・経験・体調等に見合った山を選択し休憩時間を確保した余裕のある登山日程、携行する装備、食料等に配慮する。

2.登山計画書・登山届の提出

登山計画書・登山届は家族や職場等と共有すること。

3.道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習熟し、地図とコンパス等を携行し自身の位置を常に確認する。登山地図アプリと紙の地図を併用もこと。

4.滑落・転倒防止

日頃から手入れされた登山靴等の装備を登山状況に応じて的確に使いこなす。

5.的確な状況判断

霧(ガス)や吹雪等による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、冷静な判断が出来なくなる。状況を的確に判断し早めの登山中止に努める。

6.バックカントリースキーによる遭難に注意

日本勤労者山岳連盟2025年の事故概要から見えてきた状況

1.過去最多の事故件数・事故者数である。

2.事故者の高齢化が進行している。

3.男女格差が広がっている。

更に、特徴的な変化が傾向が見られる

1.事故発生の時間帯が変化した。

2.登山形態が変化し、積雪期登山や冬季登攀、沢登が増加した。

3.事故原因は、転倒事故が増加し、虫・動植物と病気が減少した。

4.下山時の転倒事故が前年に引き続き多発している。



1.日本勤労者山岳連盟過去10年の推移

年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
事故者数	299	312	313	329	236	269	334	366	365	400
死亡行方不明	8	6	10	4	5	4	7	7	7	9

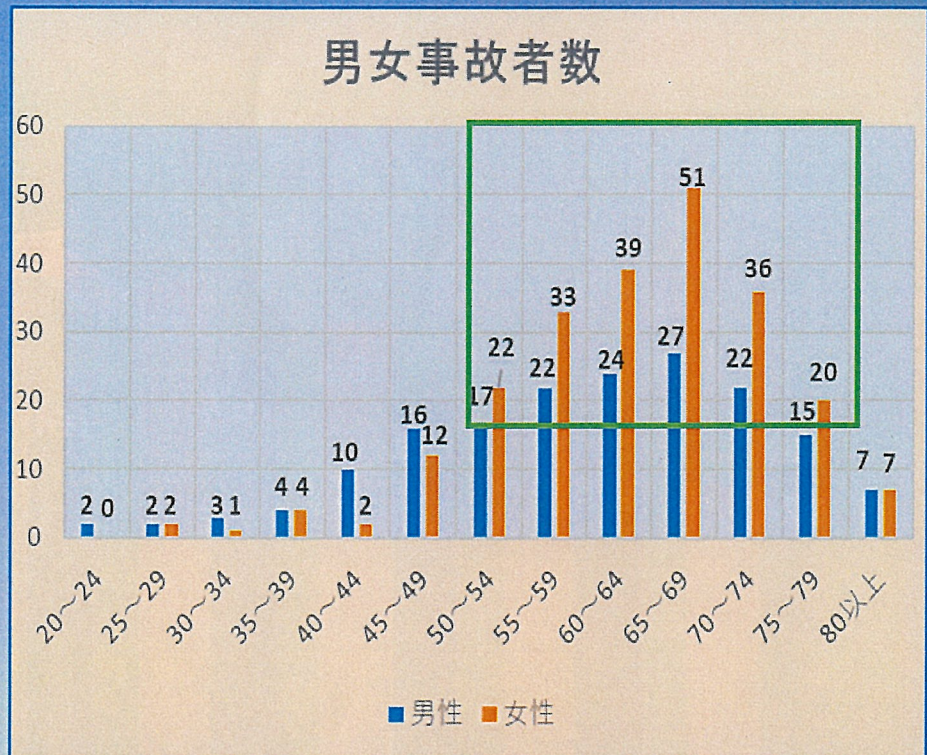


1.過去最多の事故件数・事故者数である。



2.男女別事故者数

年代	男性	女性	小計
20~24	2	0	2
25~29	2	2	4
30~34	3	1	4
35~39	4	4	8
40~44	10	2	12
45~49	16	12	28
50~54	17	22	39
55~59	22	33	55
60~64	24	39	63
65~69	27	51	78
70~74	22	36	58
75~79	15	20	35
80以上	7	7	14
合計	171	229	400

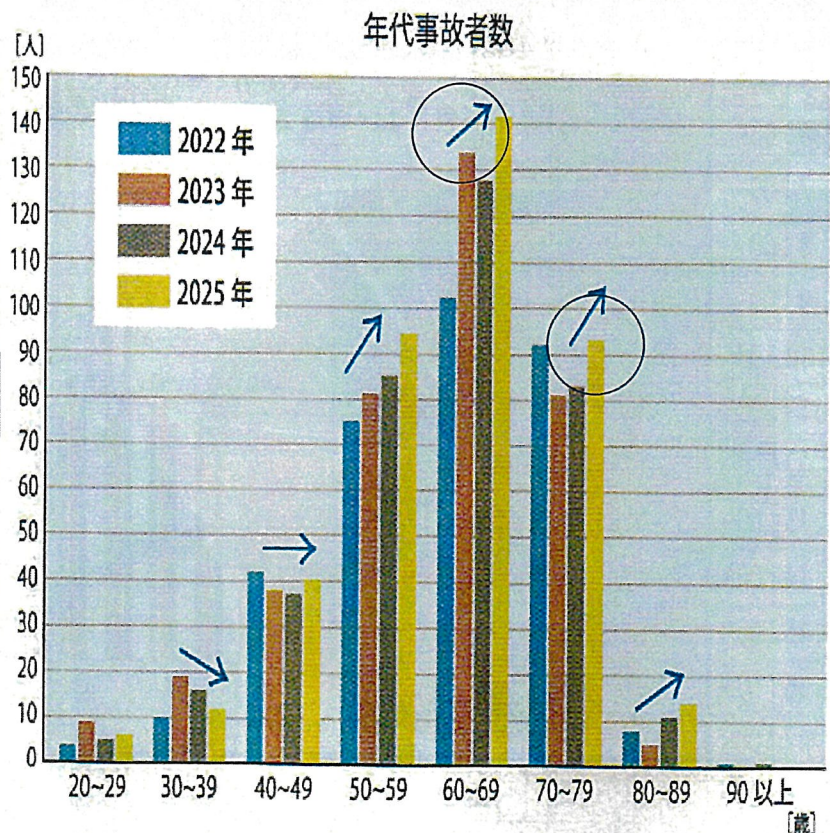


65~69歳が最多 50歳から79歳では女性が多い

3.過去4年間の状況

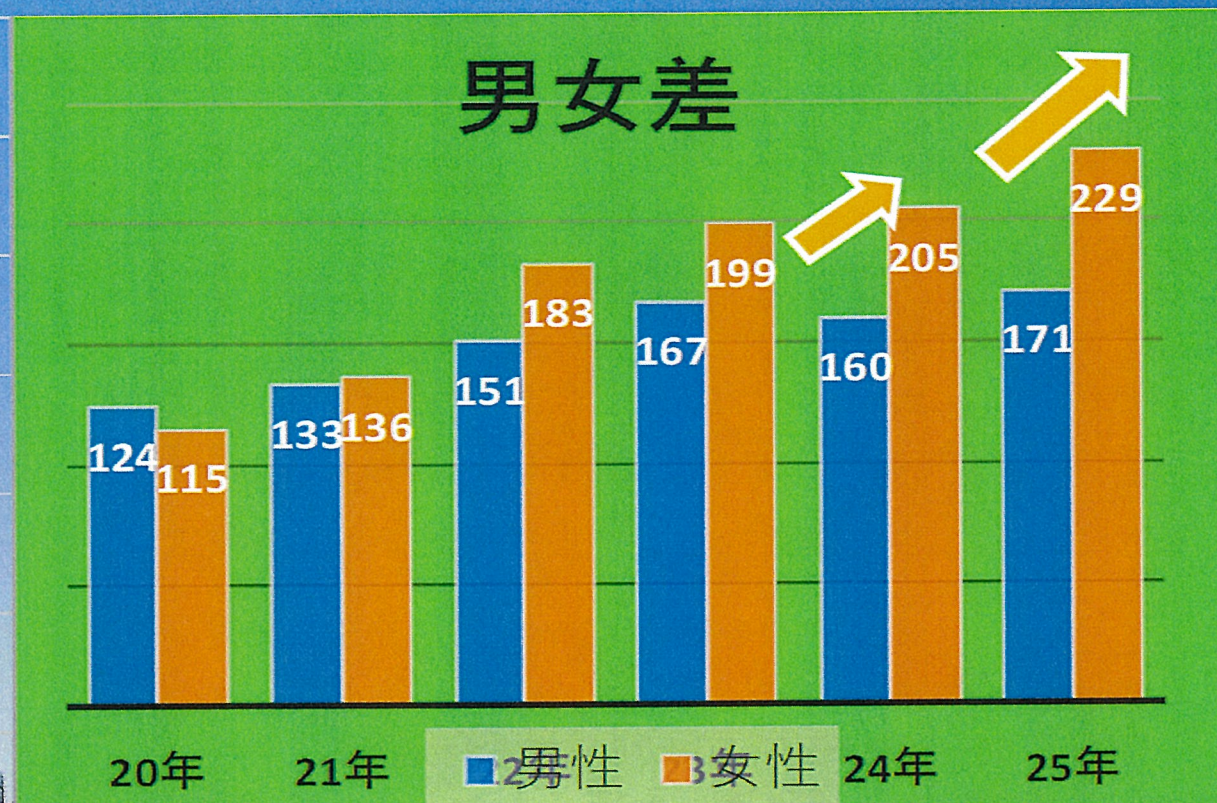
年代	2022	2023	2024	2025
20~29	4	9	5	6
30~39	10	19	6	12
40~49	42	38	37	40
50~59	75	81	85	94
60~69	102	133	127	141
70~79	92	81	83	93
80~89	8	5	11	14
90~	1	0	1	0
合計	334	366	366	400

60歳代の増加
70歳代の増加



2.事故者の高齢化が進行している。

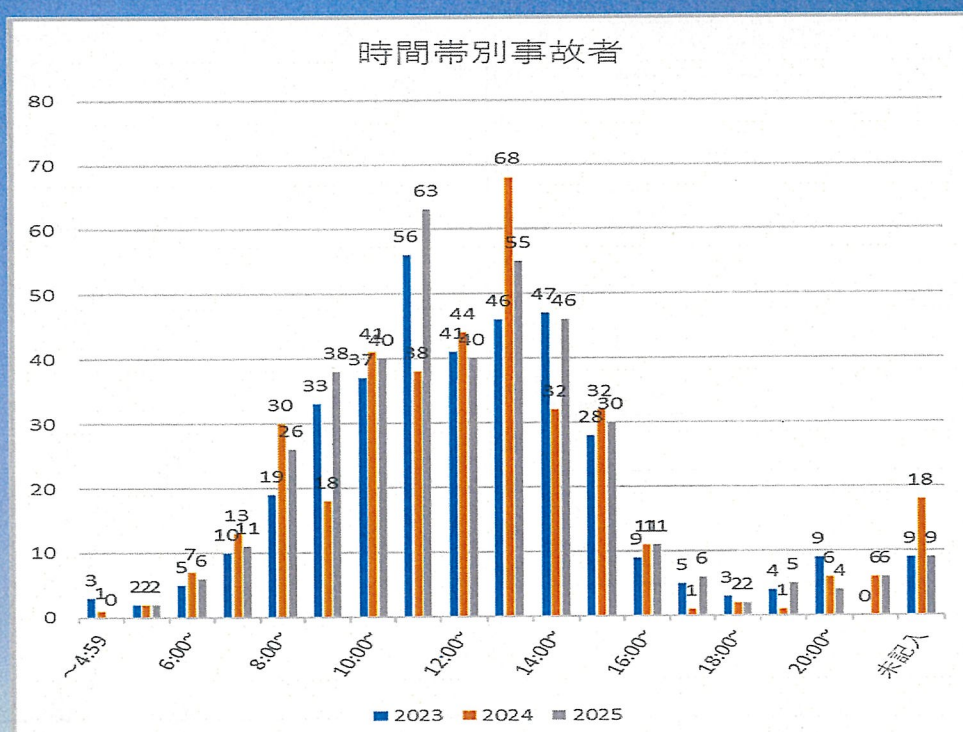
5.過去6年間の男女差



3.男女格差が広がっている。

6.事故発生時間

時間帯	2023	2024	2025
～4:59	3	1	0
5:00～	2	2	2
6:00～	5	7	6
7:00～	10	13	11
8:00～	19	30	26
9:00～	33	18	38
10:00～	37	41	40
11:00～	56	38	63
12:00～	41	44	40
13:00～	46	68	55
14:00～	47	32	46
15:00～	28	32	30
16:00～	9	11	11
17:00～	5	1	6
18:00～	3	2	2
19:00～	4	1	5
20:00～	9	6	4
21:00～	0	6	6
未記入	9	18	9
人数	366	371	400



1.事故発生の時間帯が変化した。

7.時間と原因

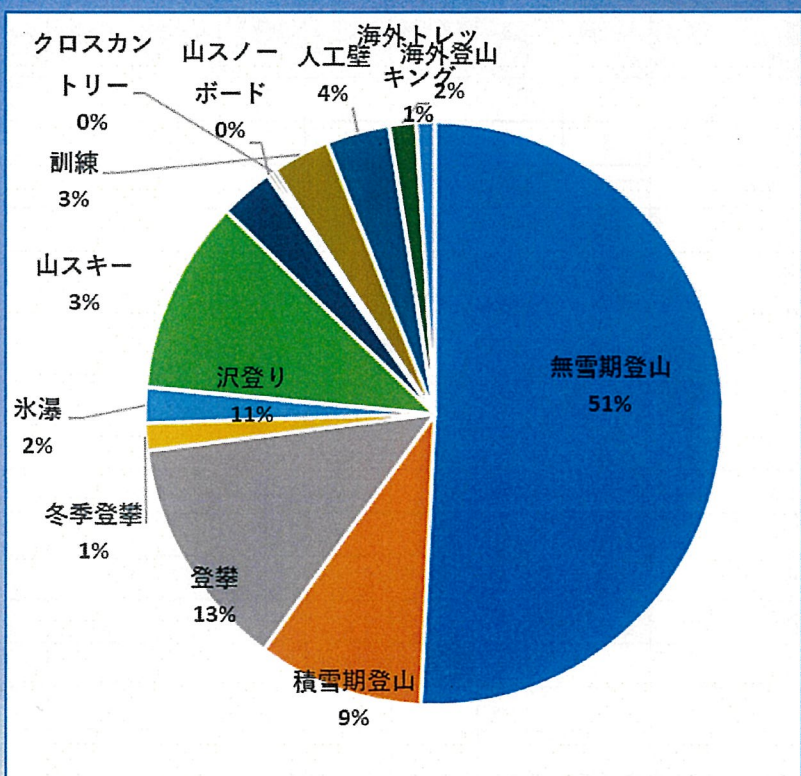
	転倒(体勢含む)			転・滑落			虫・動植物			落石(落水)			病気			その他			計
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
5時から	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6時から	4	2	2	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
7時から	5	1	4	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	11
8時から	12	5	7	7	4	3	0	0	0	1	0	1	1	1	0	4	2	2	25
9時から	22	7	15	7	2	5	4	1	3	1	0	1	0	0	0	4	1	3	38
10時から	19	6	13	11	7	4	5	1	4	4	1	3	1	1	0	0	0	0	40
11時から	31	10	21	16	6	10	4	1	3	1	1	0	1	1	0	10	5	5	63
12時から	17	6	11	13	8	5	2	0	2	2	1	1	1	1	0	5	3	2	40
13時から	29	12	17	17	13	4	3	1	3	0	0	0	0	0	0	6	3	3	55
14時から	26	11	15	14	8	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	3	1	46
15時から	19	4	15	5	2	3	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	2	2	30
16時から	5	2	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	2	11
17時から	2	0	2	3	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	8
18時から	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19時から	2	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5
20時から	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
21時から	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
22時から	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23時から	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
24時から	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
不明	7	3	4	1	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
計	204	70	134	107	61	50	26	5	21	9	3	6	5	4	1	49	23	26	400

・転倒は11時に多い。 ・転滑落は13時が多い 虫・動植物/落石は午前中にほとんど発生



8.過去3年間の登山形態

山行状態	2023	2024	2025
無雪期登山	206	200	203
積雪期登山	26	25	37
登攀	50	50	52
冬季登攀	3	2	6
氷瀑	6	7	8
沢登り	36	36	43
山スキー	15	14	12
山スノーボード	0	0	1
クロスカントリー	0	1	1
訓練	3	7	13
人工壁	12	11	14
海外登山	6	2	6
海外トレッキング	3	10	4
合計	366	365	400

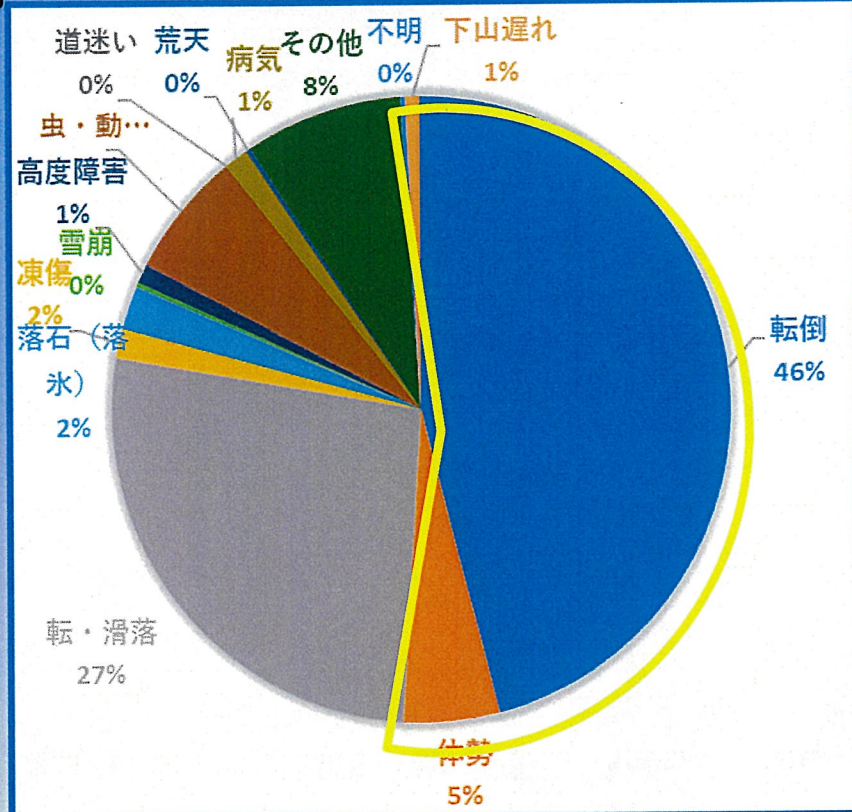


登山形態が変化し、積雪期登山や冬季登攀、沢登が増加した。



9.原因別事故の状況

原因名	事故者数	男	女
転倒	184	59	125
体勢	20	10	10
転・滑落	107	59	48
凍傷	6	4	2
落石（落氷）	9	3	6
雪崩	1	0	1
高度障害	4	3	1
虫・動植物	26	6	20
道迷い	0	0	0
病気	5	4	1
荒天	1	1	0
その他	33	18	15
不明	1	1	0
下山遅れ	3	3	0
合計	400	171	229



転倒は体勢も含む
転・滑落は転落も含む

10.形態別事故原因

原因	無雪期	積雪期	登攀	冬季登攀	氷瀑	沢登り	山スキー	山スノーボード	クロスカントリー	訓練	人工壁	海外		計
												トレッキング	登山	
転倒	124	21	7	1		17	9		1	2		1		183
体勢	8	3	2	1	2	1	1				2			20
転・滑落	29	8	31		1	14				4	8			95
墜落											1			1
転落			4		2	2					3			11
マダニ他	15	1	1							2				19
熊	1													1
蜂	3					1				2				6
病気	4									1				5
高度障害												2	2	4
凍傷				2									4	6
落石			2			5								7
落水					2									2
雪崩				1										1
下山遅れ	1					2								3
荒天		1												1
不明		1												1
その他	18	2	5	1	1	1	2	1		2		1		34
	203	37	52	6	8	43	12	1	1	13	14	4	6	400

11.過去3年間の事故原因

	転倒 (体勢含む)	転・滑落 (墜落含む)	落石	虫・ 動植物	高度 障害	雪崩	病気	道迷い	凍傷	火傷	荒天	下山 遅れ	その他	合計
22年	191	81	7	13	4	0	4	0	7	0	0	0	27	334
23年	202	90	8	26	2	0	6	2	3	1	0	1	25	366
24年	180	104	8	42	7	0	7	2	7	0	0	0	8	365
25年	204	107	9	26	4	1	5	0	6	0	1	3	34	400

※その他は、下山中や下山後に痛みが出た事例、特定の原因が不明な事例、同行者の滑落到巻き込まれた事例等が含まれる。

※虫・動植物は、マダニ、チャドクガ他虫、蜂、熊1、不明1、枝・竹等が含まれる。

・事故原因は、転倒事故が増加し、虫・動植物と病気が減少した。

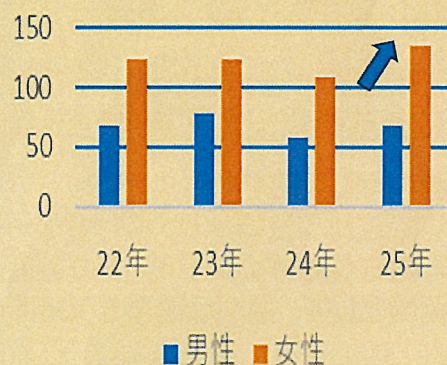
・下山遅れが3件発生



12.過去4年間の転倒事故

	男性	女性	転倒
22年	68	123	191
23年	79	123	202
24年	58	109	167
25年	69	135	204

転倒による男女差



・転倒事故がこの4年事故者数の半数以上で推移している

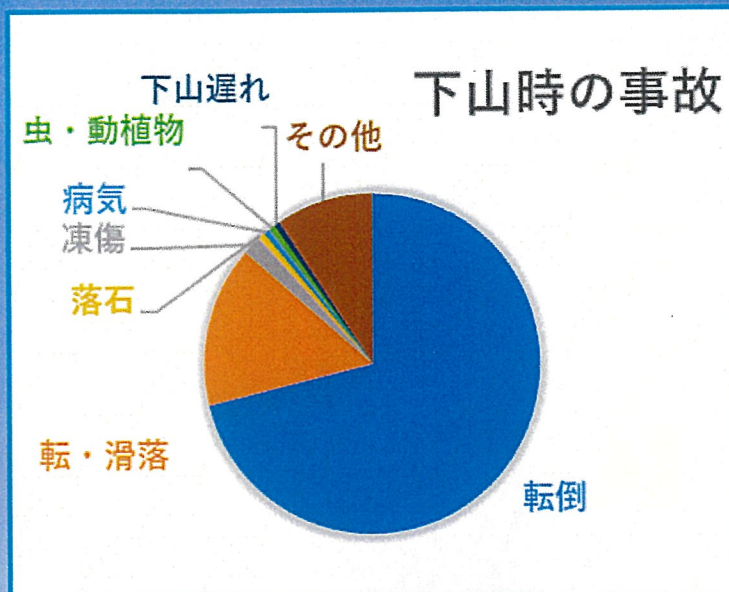
・男女の差が広がっている

334	366	365	400
167	183	183	200



13.下山時の事故原因

原因名	事故者数	男	女
転倒	116	49	67
転・滑落	25	11	14
凍傷	3	0	3
落石	1	1	0
病気	1	0	1
虫・動植物	1	0	1
下山遅れ	1	1	0
その他	15	9	6
	163	71	92



2023年事故者366人中、下山時の事故174人 136人が転倒事故 約7割
 2024年事故者365人中、下山時の事故173人 110人が転倒事故 約6割

2025年下山時の転倒事故は163人中、116人が転倒事故 約7割

下山時の転倒事故が前年に引き続き多発している。

まとめ

- ・労山会員の平均年齢は、65歳で高齢化が進んでいる。
- ・転倒事故は、高齢化が進む中で身体的能力低下が直接の要因。
- ・脚筋力の低下やバランスの衰え、視覚認知機能の低下が顕著に表れた事が要因。
- ・登山開始直後や歩き出し5分等で6件、下山開始直後や歩き出し30分以内が6件、下山口直前や登山終了後の転倒事故が6件前年発生している。
- ・出発前の準備運動やストレッチ。
- ・転倒防止には、日頃よりの筋力トレーニングが必要である。
- ・登山寿命を伸ばすための各自の適正な登高スピードを意識する登り方。
- ・登山実践として、週1回程度500m前後の登山を継続的に実行する事。
- ・転滑落では、各自の力量を超えた登山。
- ・単純なミスや不注意を怠っている事例が多発している。
- ・県連や会で行う訓練での事例もあり、指導者・管理責任者が細部にわたり注意・指導を徹底する。